

芦屋市指定文化財（寺田遺跡出土黄釉鉄絵陶器盤）の指定について

寺田遺跡出土黄釉鉄絵陶器盤を平成25年5月1日付けで芦屋市指定文化財に指定しました。指定の内容は、下記のとおりです。

記

1 名称

寺田遺跡出土黄釉鉄絵陶器盤（てらだいせきしゅつどころゆうてつえとうきばん）

2 種別

芦屋市指定有形文化財（考古資料）

3 内容

本黄釉鉄絵陶器盤は平安時代末～鎌倉時代初頭頃（12世紀末～13世紀初頭頃）の貿易陶磁で、平成13年度に実施された発掘調査で西芦屋町に所在する寺田遺跡から出土したものです。

黄釉鉄絵陶器盤は、手の平程の大きさに割られて、径35cm、深さ30cmの円形の穴の中に入れられており、その上には東播系須恵器捏鉢の破片が置かれていました。このような出土状況から、日本列島において伝世した後、地鎮等、何らかの祭祀に用いられたと推定されます。

出土した破片は、全体の3分の2程度です。大きさは、直径34.6cm、高さ9.3cmです。口縁部は玉縁状に仕上げられており、内弯する丸みを帯びた体部をもち、底部は上げ底となっています。黄釉は内面全体に施されていますが、外面では口縁部を除いて施されていません。底部内面には、褐色の鉄絵による一輪の牡丹の文様が描かれています。中国福建省磁甗産の華南製品であり、華中明州を經由して、貿易港博多に入り、瀬戸内海航路で東進し、大輪田泊において陸揚げされ、芦屋に至ったものか、尼崎市大物遺跡周辺を經由して芦屋の

地に入ってきたものと考えられます。

黄釉鉄絵陶器盤は、日宋貿易における大陸との窓口であった当時の博多港があった福岡県博多遺跡群において集中的に出土しているものの、全国的に類品が乏しい状況です。兵庫県下では、本例の他に、平安京及び瀬戸内海の重要な物流の中継地であった尼崎市大物遺跡（神崎川河尻^{かわじり}）から出土した一例が確認されているのみであり、大変稀少な大陸産文物であることがわかります。

以上のように、本黄釉鉄絵陶器盤は、平安時代末の日宋貿易による海外との交易や当該時期の芦屋の国際性を考える上で貴重な資料であり、稀少な貿易陶磁として高い学術的価値を有するものです。

4. 公開について

芦屋市立美術博物館で開催される「芦屋の歴史と文化財」展の中で、平成25年5月18日～12月23日まで展示し、公開します。

以 上